

HP Data Protector Notebook Extension 6.20

インストール/管理ガイド

製品番号: なし
初版: 2010年5月



ご注意

© Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows[®] XP、Windows[®] NTR、およびWindows Vista[®]は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

目次

本書について	7
対象読者	7
表記上の規則およびシンボル	7
全般情報	8
HPテクニカルサポート	8
製品サービスへの登録	9
HPのWebサイト	9
ご意見、ご感想	9
1 概要と要件	11
Notebook Extensionの概要	11
Notebook Extensionのインストールの概要	13
要件	13
Policy Server	13
データベース	14
Notebook Extension Agent	15
2 Notebook Extension Policy Serverのインストール	17
クイックインストール	17
詳細インストール	18
Policy Serverの更新	21
3 Notebook Extension保護ポリシーの設定	23
Notebook Extensionインストール後の初期セットアップ	23
初回インストール時の設定	24
その他のポリシーの設定	28
その他の構成タスク	30
サポートできるAgentの数の決定	31
サイズ決定を左右する要素	31
サイズ決定に関する推奨事項	32
Data Vault	32
Policy Server	33

ネットワークに関する検討事項	33
4 Notebook Extension Agentのインストール	35
個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール	36
要件	36
インストール手順	36
Notebook Extension Agentの組織全体への配置	37
Kitの内容	37
配置およびインストール手順	38
Agentの更新	40
Agent更新ポリシーを使用した自動Agent更新	40
手動Agent更新	41
5 Notebook Extensionのサポートへの連絡方法	43
用語集	45
索引	49

図一覧

1 Notebook Extensionアーキテクチャー	12
------------------------------------	----

表一覧

1 表記上の規則	7
----------------	---

本書について

本書では、以下の内容について説明します。

- ・ HP Data Protector Notebook Extensionのインストール
- ・ HP Data Protector Notebook Extensionポリシーの設定
- ・ ユーザーのデスクトップおよびノートブック上のHP Data Protector Notebook Extension Agentソフトウェア
- ・ サポートできるAgentの数の決定
- ・ Notebook Extensionのサポートへの連絡

対象読者

本書は、HP Data Protector Notebook Extensionをインストールおよび構成する管理者を対象としています。次の製品に対する理解を深めるために役立ててください。

- ・ Windowsの管理

表記上の規則およびシンボル

表 1 表記上の規則

表記法	項目
メディアムブルーの語句: 表1 (7ページ)	クロスリファレンスリンクおよびEメールアドレス
メディアムブルーの下線付き語句: http://www.hp.com	Webサイトアドレス
太字	<ul style="list-style-type: none">・ キー名・ ボックスなどGUIで入力される文字列・ クリックおよび選択されるGUI (メニュー、リスト項目、ボタン、タブ、チェックボックスなど)
イタリック体	語句の強調

表記法	項目
Monospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル名およびディレクトリ名 ・ システムアウトプット ・ コード ・ コマンド、コマンド引数、および引数の値
イタリック体のMonospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ コード変数 ・ コマンドライン変数
太字体のMonospaceフォント	Monospaceフォントの語句の強調

❗ **重要:**

詳細情報または特定の手順を示します。

📖 **注記:**

補足情報を示します。

全般情報

Notebook Extensionの全般情報は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/dataprotector> (英語)で確認できます。

HPテクニカルサポート

この製品のテクニカルサポートについては、次のHPサポートのWebサイトに記載されています。

<http://www.hp.com/support> (日本語)

HPにお問い合わせになる前に、次の情報を準備してください。

- ・ 製品のモデル名およびモデル番号
- ・ テクニカルサポートの登録番号(該当する場合)
- ・ 製品のシリアル番号

- ・ エラーメッセージ
- ・ オペレーティングシステムの種類とリビジョンレベル
- ・ 詳細で具体的な質問

製品サービスへの登録

お使いの製品を、次のSubscriber's Choice for BusinessのWebサイトで登録することをお勧めします。

<http://www.hp.com/go/e-updates> (英語)

登録を済ませると、製品のアップグレード、ドライバーの新しいバージョン、ファームウェアアップデートなどの製品リソースに関する通知を電子メールで受け取ることができます。

HPのWebサイト

その他の情報については、HPの次のWebサイトを参照してください。

- ・ <http://www.hp.com> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/go/storage> (英語)
- ・ <https://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/support/manuals> (英語)
- ・ <http://www.hp.com/support/downloads> (英語)

ご意見、ご感想

本書に関するご意見、ご感想をお待ちしております。

製品マニュアルについてのご意見、ご感想は、DP.DocFeedback@hp.comに電子メールでご送信ください。お送りいただいたご意見は、HPの資産になります。

1 概要と要件

Notebook Extensionの概要

HP Data Protector Notebook Extensionは、主にPolicy ServerとAgentの2つのソフトウェアコンポーネントから構成されています。Policy Serverは、Windowsサーバー上で動作し(サポートされるバージョンについては、サポートマトリックス(<https://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>)を参照)、Agentは、各デスクトップ/ノートブック上でバックグラウンドで動作します。

Policy Serverは、Active Directoryサーバーにあるグループや組織単位にアクセスすることも可能です。

1つ以上のファイルサーバーが存在している必要があります。ファイルサーバーには、Notebook Extensionによるユーザーデータのバックアップ先となる、Data Vaultsと呼ばれる共有フォルダーが含まれています。

Notebook Extensionアーキテクチャーを次の図に示します。

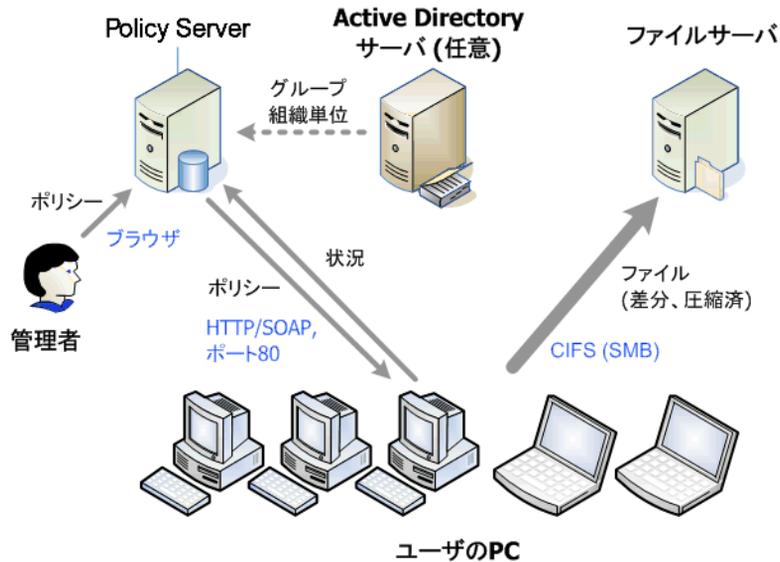


図 1 Notebook Extensionアーキテクチャー

さまざまなポリシーが、デスクトップおよびラップトップからどのファイルをバックアップするか、さらにこれらのバックアップをどこで保管するかを制御しています。Policy Serverコンソールを使用して、これらのポリシーを定義します。その後、ポリシーは、SOAPプロトコルを使用し、HTTPポート80を介して、Agentに自動的に配信されます。ポリシーは、Policy Server上で保管されます。

Agentがこれらのポリシーを実行します。ポリシーにより保護されているデータファイルをユーザーが変更すると、ユーザーPC上のハードディスクに変更前のバージョンが作成され、かつ変更したファイルが適用されるData Vaultsすべてにコピーされます。

ファイルがバックアップされると、Agentは必ず、ユーザーによるファイル変更の監査履歴を含む通知をPolicy Serverに送信します。加えて、各Agentは定期的に「動作状況」情報をPolicy Serverに送信します。Policy Serverコンソールで、このデータのレポートを生成できます。

Data Vaultsは、ファイルサーバー上に用意されます。ファイルサーバー上にはこれらのサーバーで実行されるクリーンアップソフトウェア以外にNotebook Extensionソフトウェアをインストールしないのがパフォーマンス向上のための最も良い方法です。

Active Directoryをご使用の場合、設定によりPolicy Serverがグループや組織単位にアクセスするようにすることが可能です。あるユーザーに対して、そのユーザーが属するグループや組織単位に基づいてData Vaultsを割り当てることができます。レポート閲覧時には、所属グループ・組織単位によってユーザーを選択することが可能です。

Notebook Extensionのインストールの概要

Notebook Extensionのインストールは3段階に分かれています。

1. **Notebook Extension Policy Serverをインストールする。**
第2章(17ページ)を参照してください。
2. **保護ポリシーを設定する。**
第3章(23ページ)を参照してください。
3. **Notebook Extension Agentをラップトップおよびデスクトップにインストールする。**
第4章(35ページ)を参照してください。

要件

Policy Server

サポートされるオペレーティングシステムについては、サポートマトリックスを参照してください。

注記:

Windows 2003 64ビットオペレーティングシステムへのインストール: Policy Serverは、64ビットWindowsオペレーティングシステムの32ビット互換モードで動作します。すなわち、インターネットインフォメーションサービス(IIS)が32ビットモードで動作している必要があります。動作していない場合は、要件のチェック中にインストールによって検出されます。続いて、IISを32ビットモードに設定するオプションが表示されます。IISが64ビットモードでなければならない他のWebアプリケーション(WebメールのあるMicrosoft Exchange 2007-Outlook Web Accessなど)がサーバーにある場合は、そのサーバーにPolicy Serverをインストールすることはできません。これは、Windows 2008上にPolicy Serverをインストールする場合にはあてはまりません。

サーバーには次のものがインストールされている必要があります。

- Internet Information Services 6.0、7.0、7.5以降、ASP.NETアプリケーションのサポート機能付き。

Windows 2003では、IIS 6.0が必要条件になっています。Policy Serverをインストールする前にIIS 6.0がインストールされていなければなりません。Windows 2008について

は、IIS 7.0および7.5がインストールされていない場合は、Notebook Extensionがインストールします。

- Microsoft ASP.NET 2.0

また、次のものもサーバーにインストールされている必要があります。

- Microsoft Installer 3.1以降(.NET Framework 2.0 SP1が必要)。
- Microsoft .NET Framework 2.0 SP1以降。ウィザードは、バージョン2.0 SP1をインストールします。
- Microsoft SQL Express (別のSQLバージョンがない場合)

また、Installation Information Services 7.0および7.5についてののみ、以下のIISコンポーネントが必要です。インストールされていない場合は、ウィザードからインストールすることができます。

- IIS Static Content Web Server – 静的HTMLファイル、ドキュメント、および画像の提供に必要
- IIS ASP.NET-ASP.NET 2.0および.NET Frameworkの配置に必要
- IIS Security – Policy Serverコンソールに使用される統合Windows認証を使用するために必要
- IIS 6 Management Compatibility – セットアップによってIIS 6およびIIS 7をできるだけ同じように設定可能

データベース

Notebook Extensionは、Microsoft SQL Serverデータベースにアクセスする必要があります。サポートされるバージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

Microsoft Enterprise Managerを使用してSQL Serverインストールの認証モードを確認(および変更)できます。

1. SQL Serverインスタンスを右クリックし、**[プロパティ]**を選択し、**[セキュリティ]**タブをクリックします。
2. **[SQL Server and Windows]**オプション(**[Windows only]**オプションではなく)がすでに選択されているはずです。選択されていない場合は、選択して**[OK]**をクリックします。

また、Notebook Extension,のインストール中に、MicrosoftのSQL Server Express Editionのインスタンスをインストールすることもできます。

Notebook Extension Agent

Notebook Extension Agentソフトウェアは、Windowsを実行するユーザーのデスクトップまたはノートブックにインストールできます。サポートされるプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。

2 Notebook Extension Policy Serverのインストール

注記:

標準的なインストール手順に従うことで、既存のNotebook Extension Policy Serverのインストールをより新しいバージョンに更新することができます。詳しくは、「[Policy Serverの更新](#)」(21ページ)を参照してください。

クイックインストール

Notebook Extension Policy Serverの要件については、[Policy Server](#)、13ページを参照してください。

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. 画面上の指示に従います。
3. Notebook Extension Policy Serverは、Microsoft SQL Serverデータベースにアクセスする必要があります。**[Microsoft SQL Server Expressの既存のData Protector NE インスタンスを使用する]**を選択するか、**[Microsoft SQL Server 2000/2005の既存のインスタンスを使用する]**をクリックします。既存のSQL Serverを使用するように選択した場合は、データベースサーバー接続文字列と、新しいデータベースを作成するための十分な権限を持つアカウントの資格情報を入力する必要があります。
4. ウィザードの**[Data Protector Notebook Extension Administration Serverのインストール]**ページで、**[インストール]**をクリックし、インストールを開始します。
5. インストールが終了したら、クリーンアップソフトウェアをインストールする必要があります。**[Data Protector Notebook Extension Data Vaultクリーンアップのインストール]**画面で、**[インストール]**をクリックします。

6. インストールが終了したら[次へ]をクリックします。その後、Notebook Extension Policy Serverコンソールを実行するように選択できます。

 注記:

インストール時に、クリーンアップソフトウェアはPolicy Serverにインストールされます。また、パフォーマンスを最適化するため、クリーンアップソフトウェアをData Vaultsにもインストールすることを推奨します。

詳細インストール

 注記:

Windows 2003 serverのみ: このサーバーの.NET 2.0 Frameworkランタイムのセキュリティポリシーがローカルイントラネットセキュリティゾーンに対して[Full Trust]に設定されている場合、Notebook Extension Policy Serverは、ネットワーク上で共有されているCD-ROM、またはネットワークファイル共有からのみインストール可能です。サーバーにローカルCD-ROMドライブがない場合は、管理ツールの.NET Framework 2.0 構成ツールを使用して、ローカルイントラネットセキュリティゾーンのランタイムセキュリティポリシーを[Full Trust]に変更するか、CDからサーバー上のローカルディスクにServerフォルダーをコピーします。

Notebook Extension Policy Serverインストールを実行するには、「管理者」権限を持つアカウントにログインする必要があります。

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. [Policy Serverのインストール]をクリックします。
要求されたら、[このプログラムをディスクに保存]ではなく、[このプログラムを現在の場所から開く] (または[このプログラムを現在の場所から実行])を選択します。
3. Notebook Extension Policy Serverには、.NET Framework 2.0 SP1が必要です。事前にインストールされていない場合は、CD-ROMからそれをインストールするかどうかの確認が求められます。
インストールするには、Windows Installer 3.1以降が必要です。必要な場合は、CD-ROMからWindows Installer 3.1をインストールするかどうかの確認が求められます。
4. インストールウィザードは、他の必要なソフトウェアがインストールされていることをチェックします。

- ・ インターネットインフォメーションサービス(IIS)
- ・ ASP.NET 2.0

いずれかが不足している場合は、リストの該当する要件をクリックすると、そのインストール方法の詳細が表示されます。

[次へ]をクリックします。

5. Microsoft SQL Serverをインストールします。

Microsoft SQL Server 2000/2005の既存のインスタンスを使用する

- a. [Microsoft SQL Server 2000/2005の既存のインスタンスを使用する]をクリックします。
- b. [データベースサーバー]フィールドで、既存のデータベースサーバーへの接続文字列を入力します。
- c. [ログイン]フィールドと[パスワード]フィールドで、新しいデータベースを作成するために十分な権限を持つアカウントの資格情報を入力します。通常、これは「sa」アカウントです。
- d. [次へ]をクリックします。入力した接続情報は、既存のデータベースサーバーにテスト接続するために使用されます。接続に成功すると、ウィザードはステップ6に進みます。

MicrosoftのSQL Server Express EditionのNotebook Extensionインスタンスをインストールする

- a. [Microsoft SQL Server ExpressのDataProtectorNEインスタンスをインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。
- b. [インストール]をクリックして、Microsoft SQL Server 2005 Express Editionのインスタンスをインストールし、「DataProtectorNE」という名前を付けます。インストールが完了したら、[次へ]をクリックします。

6. Notebook Extension Policy Serverソフトウェアをインストールする

- a. 初期画面で、[次へ]をクリックして、インストールを開始します。
 - ・ Notebook Extension Policy Serveコンソールが、Webアプリケーションとして仮想ディレクトリC:\inetpub\wwwroot\dpnepolicyにインストールされます。
 - ・ Notebook Extension Webサービスは、C:\inetpub\wwwroot\dpnepolicyserviceにインストールされます。どちらも、ポート80でHTTPプロトコルを使用します。
- b. Policy Serverのインストールが完了したら、[閉じる]、さらに[次へ]をクリックします。

7. ここで、クリーンアッププログラムをインストールする必要があります。[インストール]をクリックし、インストールを開始します。

8. クリーンアップのインストールが終了したら、[次へ]をクリックします。

Notebook ExtensionをNotebook Extension Policy Serverコンソールから集中管理します。コンソールはブラウザベースであるため、Policy Serverへのブラウザ接続を確立できる(HTTPポート80を使用して)任意のコンピューターからNotebook Extensionを管理できます。

Policy Server上のブラウザからNotebook Extension Policy Serverコンソールを実行するには、[Run Policy Server Console]チェックボックスをオンのままにして、[終了]をクリックします。

 **注記:**

インストール時に、クリーンアップソフトウェアはPolicy Serverにインストールされます。また、パフォーマンスを最適化するため、クリーンアップソフトウェアをData Vaultsにもインストールすることを推奨します。

 **注記:**

*Policy Server*コンソールのブラウザ設定: ブラウザーでの[Policy Server Console]ページの表示に問題がある場合は、ブラウザのセキュリティ設定を確認します。コンソールには、以下の設定が必要です。

- JavaScriptが有効である。
- dpnepolicyのWebサイトに対してポップアップブロックが無効である。
- 特定のブラウザおよびそのバージョンによっては、その他の制限的なセキュリティ設定を変更する必要がある場合がある。

Microsoft SharePointとのインストール: Policy ServerがMicrosoft SharePointの動作するサーバーにインストールされると、Policy Serverコンソールを実行したときに「ページが見つかりません」という404エラーが表示されることがあります。Microsoft社のWebサイト<http://support.microsoft.com/kb/828810>にあるナレッジベースの記事に、この問題と解決策が記述されています。この問題は、Policy Serverだけでなく、すべてのASP.NET Webアプリケーションにあてはまることに注意してください。

SharePointを使用しているサーバーでPolicy Serverを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. SharePoint管理ツールを使用して、2つのPolicy Server Webアプリケーション、dpnepolicyおよびdpnepolicyserviceに対して除外を作成します。
2. Microsoft社のナレッジベースの記事の説明に従って、2つのPolicy Server web.configファイル(dpnepolicy¥web.configおよびdpnepolicyservice¥web.config)を変更して、<httpHandlers>および<trust> XMLコードを追加します。

Policy Serverの更新

標準的なインストール手順に従うことで、既存のNotebook Extension Policy Serverのインストールをより新しいバージョンに更新することができます。すべての既存の設定(Data Vault設定やライセンスなど)は、新しいバージョンでも利用できます。

前のバージョンのNotebook Extensionを使用する既存のAgentは、そのまま使用することができます。Manual Updateを使用して手動で更新することも、Agent更新ポリシーを使用して「ユーザーの操作なしに」更新することもできます。詳しくは、「[Agentの更新](#)」(40ページ)を参照してください。

更新手順:

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. ウィザードの[Install Data Protector Notebook Extension]ページで、[Install Policy Server]をクリックし、更新を開始します。
3. 画面上の指示に従います。
4. インストール手順によって既存のPolicy Serverのインストールが検出され、更新が行われます。
5. 画面上の指示に従います。
6. インストールが終了したら[次へ]をクリックします。その後、Notebook Extension Policy Serverコンソールを実行するように選択できます。

注記:

クリーンアップソフトウェアがolicy Serverにインストールされている場合は、クリーンアップソフトウェアも更新する必要があります。手動で、またはAgent更新ポリシーを使用して更新することができます。

3 Notebook Extension保護ポリシーの設定

Notebook Extensionインストール後の初期セットアップ

Notebook Extensionのインストール後すぐに、Policy Serverコンソールに[初期セットアップ]ウィンドウが表示されます。Notebook Extensionのポリシーをセットアップするには、事前に、次の設定手順を正常に完了しておく必要があります。

1. 暗号化パスワードを定義またはインポートする。

セキュリティのため、Notebook Extensionを使用する前に、暗号化パスワードを定義する必要があります。これによって、すべてのファイルがユーザーコンピューターで暗号化され、暗号化されたファイルがネットワーク経由で送信されるように保証されます。すべてのユーザーからのファイルと、中央で設定されたすべてのData Vaultsのファイルの暗号化には、同じパスワードが使用されます。

- ・ 中央で定義されたData Vault(Policy Serverコンソールを通じて定義)は、常に、Notebook Extension暗号化パスワードに基づく暗号化を使用します。
- ・ ローカルで定義されたData Vaultsの場合(ユーザーによってそれぞれのコンピューターを使用して定義)、ユーザーはそれぞれについて暗号化を使用するかどうかを選択し、ユーザー専用のパスワードを指定できます。

Notebook Extensionの初回インストール時には、続行する前にパスワードを生成または**インポート**する必要があります。パスワードの生成後は、安全のために、パスワードを**エクスポート**します。これにより、パスワードは安全な場所に保存されます。後から、インポートしてそれを使用できます。

パスワードを管理するため、[暗号化ポリシーを設定する]をクリックして、ウィンドウ上の指示に従います。

注記:

パスワードを生成またはインポートした後は、それを変更できません。

2. Data Protector Notebook Extensionにライセンスを適用する。

Notebook Extensionを評価する場合は、ライセンスを追加せずに60日間使用できます。保護できるユーザー数の制限もありません。Notebook Extensionを購入する場合は、HPのLicense Key Delivery Service (<https://webware.hp.com/welcome.asp>) にアクセスしてパスワードをダウンロードする必要があります。後の手順でこのライセンスキーを入力できます。購入できるライセンスの種類は次のとおりです。

- ・ TA032AAまたはTA032AAE (100個のAgentを使用可能)
- ・ TA033AAまたはTA033AAE (1000個のAgentを使用可能)
- ・ TA036AAまたはTA036AAE (100 AgentおよびHP Data Protector Starter Pack Windows (B6961BAまたはB6961BAE)用)

評価期間の終了前に、恒久ライセンスキーを入力する必要があります。ライセンスパスワードを入力しないと、期限の終了日に当たる60日目に、AgentがデータをLocal RepositoriesにもData Vaultsにもコピーできなくなります。ただし、以前に保護されたファイルバージョンを復元することはできます。

ライセンスを管理するには、**[ライセンス管理]**、**[Enter a license key for Data Protector Notebook Extension users]**の順にクリックします。ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

上記の設定手順が正常に完了すると、Policy Serverコンソールは完全に使用可能になります。Notebook Extensionをインストールしたばかりの場合は、Notebook Extensionのその他の要素を、次の項で示す順番で設定します。

初回インストール時の設定

Notebook Extensionには、大半の組織で十分に機能するポリシーが事前に設定されています。最初にData Vaultポリシー、コピーポリシー、およびファイル保護ポリシーを設定し、その後、ユーザーのデスクトップおよびノートブックにNotebook Extension Agentソフトウェアをインストールすることを推奨します。

 **注記:**

新しいポリシーを設定する代わりに、Notebook Extensionに事前設定されているポリシーを変更することができます。各段階で、**[新しいポリシーを作成する]**ではなく**[既存のポリシーを編集する]**を選択するだけです。

インストールの保護ポリシーはPolicy Serverコンソールから設定します。中央で定義したポリシーは、すべてのNotebook Extension Agentに配布され、ユーザーのデスクトップおよびラップトップで実行されます。

1. インストールの終わりに、またはブラウザーから次のURLを使用して随時に、Notebook Extension Policy Serverコンソールを実行します。

`http:// policyserver /dpnepolicy/`

ここで、「*policyserver*」は使用しているNotebook Extension Policy Serverの名前です。サーバーに「管理者」としてログインする必要があります。

2. **Data Vaultポリシーを設定します。**

Data Vaultポリシーは、ポリシーで保護されたユーザーファイルの継続的バックアップの保管先を設定します。ファイルが変更された際、編集前のバージョンと編集されたファイルを1つまたは複数の保管先に自動的にバックアップできます。保管先は通常はネットワーク共有上にあります。各ユーザーグループは1つまたは複数のData Vaultsに割り当てられます。たとえば、*営業所*という名前のData Vaultポリシーを定義し、それを*東京営業所*、*大阪営業所*、*札幌営業所*、*名古屋営業所*というユーザーグループに割り当てます。

*Data Vaults*の要件:

Notebook Extensionは、ユーザーのデスクトップおよびラップトップからバックアップされた保護ファイルを保管するために標準のWindowsファイル共有を使用します。共有は、Windowsファイルサーバー上に配置する必要があります。このファイルサーバーとPolicy Serverがインストールされているマシンが同じマシンである必要はありません。ただし、インストールされているAgentの数も少なくNotebook Extensionを評価しているだけの場合は、Policy ServerとData Vaultを同じマシンにすると役立つことがあります。

Notebook Extensionは、元のファイルと同じファイルサーバーにバックアップされたファイルにアクセス許可(ACL)を設定します。つまり、ユーザーは、自分のコンピューター上で元のファイルにアクセスできる場合にだけ、バックアップされたファイルを回復できます。

*Data Vault*ポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[Data Vaultポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. **[新しいData Vaultポリシーを作成する]**をクリックします。
- d. ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

Data Vaultを作成する場合、フォルダーまたは共有のパス長は66文字以下にする必要があります。

ベストプラクティス:

この時点では、コピーポリシーは「デフォルト」のままにしておきます。

クリーンアップの場合:

- ・ Data VaultがこのPolicy Serverにある場合は、このマシン名のデフォルト設定のままにします。
- ・ Data Vaultが別のWindowsファイルサーバー上にある場合は、そのサーバーにData Vaultクリーンアップソフトウェアをインストールし、そのマシンをクリーンアップマシンとして指定します。

3. コピーポリシーを設定します。

コピーポリシーは、Data Vaultに同時にコピーできるクライアント数の制限を設定します。継続的バックアップを補完するための初期およびスケジュールされたData Vaultの更新も定義します。各コピーポリシーは1つまたは複数のData Vaultsに割り当てられます。

コピーポリシーは、次のことを定義します。

- ・ Data Vaultsに同時にファイルをコピーできるAgentの数。
- ・ 定期的な更新のスケジュール。ユーザーに関連すると予想されるファイルがすべてData Vaultに存在することを確認し、存在しない場合は、不足しているファイルをコピーします。これにより、すべてのユーザーファイルがData Vaultに適切にコピーされていることをより強力に保証します。
- ・ **初期更新**(またはコピー)を実行する必要があるかどうか。通常のNotebook Extension操作の間は、ユーザーがNotebook Extension継続的保護ファイルを変更するたびに、変更に関する情報しかData Vaultにコピーされないため、初期更新が必要です。

デフォルトのコピーポリシーが、明示的にコピーポリシーが設定されていないすべてのData Vaultsに適用されます。デフォルトのコピーポリシーの設定値は変更できますが、削除したり、名前を変更したりすることはできません。

コピーポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[コピーポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. **[新しいコピーポリシーを作成する]**をクリックします。
- d. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

- ・ **制限:** 期間を通常の営業時間に設定し、その他の時間帯の下限を設定します。
- ・ **初期更新:** ファイル保護ポリシーによって保護されているすべてのユーザーファイルがバックアップされるように保証するため、初期更新を有効にします。
- ・ **毎週/毎月ファイルを更新する:** 更新にはいくつかのファイルコピー(ある場合)が含まれるため、ポリシーで保護されたすべてのユーザーファイルが適切にバックアップされるように保証するためにData Vault更新を有効にします。

4. ファイル保護ポリシーを設定します。

ファイル保護ポリシーでは、どのファイルを保護し、以前のバージョンをどれだけの期間保持するかを指定できます。たとえば、Word文書、Excelスプレッドシート、PowerPointプレゼンテーションに関して、Office文書という名前のファイル保護ポリシーを定義できます。

ローカルディスクドライブ上のファイルは保護することができます。

2つのタイプのポリシーがあります。

- ・ **Continuous File Protection** –ファイルがディスクに保存されたり削除されたりしたときに、いつでもリアルタイムにファイルを保護します。一般に、メニューの**[保存]**を選択できるファイルや文書は、Continuous File Protectionポリシーで保護できます。

Notebook Extensionには、各種のサンプルポリシーが含まれています。インストール後、デフォルトで、Office文書、ソフトウェア開発、およびWeb文書の3つが選択されています。これらのポリシーを使用して開始することもできれば、自分専用のポリシーを作成することもできます。

- ・ **Open File Protection** –ファイルの「スナップショット」を定期的(通常、1時間に1回)とることで、ファイルを保護します。一般的に、とても大きかったり(100MB以上)、1日中ずっと開いていたり、**[保存]**メニューがないようなファイルはこの方式で保護します。この種のファイルのうち典型的なものとしては、メールやデータベースファイルがあります。

Notebook Extensionには、Microsoft OutlookとMicrosoft Outlook Expressの2つの例が含まれています。これらのポリシーを使用して開始することもできれば、自分専用のポリシーを作成することもできます。

注記:

Notebook ExtensionはOpen File ProtectionポリシーのあるEFS暗号化ファイルのバックアップをサポートしないため、.pstのようなファイルはEFS暗号化してはいけません。

ファイル保護ポリシーを作成する

- a. 左側のナビゲーションペインで、**[ポリシー]**をクリックします。
- b. **[ファイル保護ポリシーを設定する]**をクリックします。
- c. **[新しいContinuous File Protectionポリシーの作成]**または**[新しいOpen File Protectionポリシーの作成]**をクリックします。
- d. ウィンドウ上の指示に従います。

 **注記:**

コピーポリシーを作成し除外または包含ルールを設定するとき、ファイル拡張子は、Open File Protectionポリシーの場合は9文字、Continuous File Protectionポリシーの場合は29文字までに行ってください。

 **重要:**

これで、Notebook Extensionが必要とするすべての基本ポリシーが設定されました。Notebook Extensionには、大半の組織で十分に機能するその他のポリシーも事前に設定されています。この時点で、ユーザーのデスクトップおよびラップトップでAgentのインストールを開始することを推奨します(第4章(35ページ)を参照)。後から、クリーンアップポリシー、ユーザー制御ポリシー、Agent更新ポリシー、レポートデータ保持ポリシーなどの他のNotebook Extensionポリシーを見直して、設定することができます。

その他のポリシーの設定

1. Active Directoryへのアクセスを設定します。

 **注記:**

Active DirectoryグループのData Vaultsとの関連付け: Data VaultsをData Vaultポリシー内のActive Directoryグループに関連付けることができます。関連付けられたグループのすべてのメンバーは、関連付けられたData Vaultにバックアップされます。個別のユーザーを関連付けることはできません。さらに、組織単位(OU)を関連付ける場合は、そのOU内のグループのみ関連付けられます。直接OU内にあるユーザーは、Data Vaultに関連付けられません。Active Directoryグループのリストには、セキュリティグループ以外のグループ(配布グループなど)が誤って含まれることがあります。ただし、実際にはセキュリティグループだけがData Vaultに関連付けられます。

グループや組織単位ごとにData Vaultsを割り当てる場合や、グループや組織単位別にレポートする場合は、Active DirectoryにアクセスできるようにPolicy Serverを設定する必要があります。

Active Directoryへのアクセスを設定すると、Data Vaultsの[グループおよび組織単位のメンバー]オプションが有効になります(「[初回インストール時の設定](#)」(24ページ)を参照)。

Active Directoryへのアクセスを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[設定]をクリックします。
- b. [Active Directoryへのアクセスを設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

2. クリーンアップポリシーを設定します。

ユーザーコンピューター上のLocal Repositoriesと、ファイルサーバー上のData Vaultsは、定期的にはクリーンアップして、ファイル保護ポリシーで定義した保持期間の設定を経過している古いバージョンを削除する必要があります。

クリーンアップポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
- b. [クリーンアップポリシーを設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

- ・ [Local Repositoryクリーンアップスケジュール]: デフォルトの1時間のままにしておきます。
- ・ [Data Vaultクリーンアップスケジュール]: 大半のインストールでは、「毎日、真夜中にクリーンアップする」デフォルト設定で十分なはずです。

3. ユーザー制御ポリシーを設定します。

ユーザー制御ポリシーは、ユーザーのコンピューターに割り当てられた組織のポリシーに対してユーザーが制御できる範囲を決定します。

ユーザー制御ポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
- b. [ユーザー制御ポリシーを設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

ベストプラクティス:

[ファイルの回復]に[ユーザによる制御を許可する]を設定します。

4. Agent更新ポリシーを設定します。

ポリシーは、Notebook Extensionで保護されるすべてのデスクトップとラップトップが使用するNotebook Extension Agentのバージョンを指定します。Agentはすべて自動的にこのバージョンに更新されます。

Agent更新ポリシーを設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
- b. [Agent更新ポリシーを設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

5. レポートデータの保持期間を設定します。

これは、情報の主要なカテゴリごとに、レポート目的でデータを保持しておく期間を設定します。

レポートデータの保持期間を設定する

- a. 左側のナビゲーションペインで、[設定]をクリックします。
- b. [レポートデータの保持期間を設定する]をクリックします。
- c. ウィンドウ上の指示に従います。

その他の構成タスク

次の手順は、通常、Notebook Extensionの初回インストール時に実行されます。

Notebook Extensionソフトウェアのライセンスを登録します。

Notebook Extensionを評価する場合は、ライセンスを追加せずに60日間使用できます。保護できるユーザー数の制限もありません。Notebook Extensionを購入する場合は、HPのLicense Key Delivery Service (<https://webware.hp.com/welcome.asp>)にアクセスしてパスワードをダウンロードする必要があります。後の手順でこのライセンスキーを入力できます。

ライセンスキーを入力するには、以下の手順に従ってください。

1. 左側のナビゲーションペインで、[ライセンス管理]をクリックします。
2. [Enter a license key for HP Data Protector Notebook Extension users]をクリックします。
3. ウィンドウ上の指示に従います。

複数のライセンスを入力する場合は、行ごとにライセンスキー文字列を1つ記述したテキストファイルを作成することができます。その後、[Import License Key(s)]フィールドを使用してファイルをインポートできます。

注記:

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

ライセンスの移動

Policy ServerのIPアドレスを変更して別のシステムに移動する必要がある場合、またはライセンスをPolicy Server間で移動する必要がある場合は、<https://webware.hp.com/welcome.asp>のHP License Key Delivery Serviceにアクセスしてください。

暗号化パスワードを設定、インポート、およびエクスポートします。

セキュリティのため、Notebook Extensionを使用する前に、暗号化パスワードを定義する必要があります。これによって、すべてのファイルがユーザーコンピューターで暗号化され、暗号化されたファイルがネットワーク経由で送信されるように保証されます。すべてのユーザーからのファイルと、中央で設定されたすべてのData Vaultsのファイルの暗号化には、同じパスワードが使用されます。

- ・ 中央で定義されたData Vault (Policy Serverコンソールを通じて定義)は、常に、Notebook Extension暗号化パスワードに基づく暗号化を使用します。
- ・ ローカルで定義されたData Vaultsの場合(ユーザーによってそれぞれのコンピューターを使用して定義)、ユーザーはそれぞれについて暗号化を使用するかどうかを選択し、ユーザー専用のパスワードを指定できます。

Notebook Extensionの初回インストール時には、続行する前にパスワードを生成またはインポートする必要があります。パスワードの生成後は、安全のために、パスワードをエクスポートします。これにより、パスワードは安全な場所に保存されます。後から、インポートしてそれを使用できます。

注記:

パスワードを生成またはインポートした後は、それを変更できません。

暗号化パスワードを管理する

1. 左側のナビゲーションペインで、[ポリシー]をクリックします。
2. [暗号化ポリシー]をクリックします。
3. ウィンドウ上の指示に従います。

サポートできるAgentの数の決定

すべての環境で通用する全般的なルールを提案することは困難です。このため、ここではいくつかのケースを挙げ、ここで提示する数が有効になる状況について曖昧さを残さず明快に説明します。

サイズ決定を左右する要素

Notebook Extension環境のサイズ決定は複雑です。ある環境でサポートできるユーザーの数を左右する技術的要素には、次のようなものがあります。

- ・ Data Vaultの処理能力(バックアップデータの夜間統合のため)
- ・ Data VaultサーバーのネットワークおよびI/O帯域幅
- ・ Data Vaultサーバーのディスク容量

- ・ Policy Server上のSQLデータベースのサイズ
- ・ Policy Serverのネットワーク帯域幅と処理能力

インストール済みの構成で上記の項目のうちどれがボトルネックの原因になるかは、次に示すNotebook Extensionのコンフィギュレーション設定および使用パターンの両方によって決まります。

- ・ Data Vaultのユーザー数
- ・ 設定された保護ポリシーで保護されるファイルの数とサイズ
- ・ 保護されるファイルの変更頻度
- ・ 保護されるファイルタイプの保持設定

サイズ決定に関する推奨事項

Data Vault

次のハードウェア仕様は、Data Vaultの堅牢な基盤になります。

- ・ 3GHzデュアルコアプロセッサ×1
- ・ 2GB RAM
- ・ 1.5TBのディスク容量

データ特性が平均的に次のようになっている場合、上記の仕様のData Vaultは、最大1,000個のAgentに対応する数のユーザーをサポートできます。

- ・ 保護されるファイルの平均数: 3000
- ・ ローカルディスク上で保護されるファイルの平均総サイズ: 4GB¹
- ・ Data Vaultの平均総サイズ(圧縮): 1GB

平均的にこの例よりも保護する必要があるデータの量が多い場合は、エンドユーザーデータの複数のData Vaultsへの分散を検討してください。Data Vaultのディスク容量を単純に増やしてもデータを保存できる余地は増えますが、Data Vaultで適切なタイミングでバックアップデータの夜間統合を行えなくなることがあります。

ユーザーの所有するデータが平均的に少ない場合は、1つのData Vaultで1,000人を超えるユーザーをサポートできます。

¹Continuous File Protectionポリシー設定のファイル3.5GBとOpen File Protectionポリシー設定のファイル0.5GBの混在を想定

注記:

パフォーマンスを最大限に引き出すために、Data Vaultのオペレーティングシステムとバックアップデータは別々の物理ディスク上に保存することを強く推奨します。

Policy Server

Policy Server上で生成されるトラフィックの量は、サーバーがサポートするAgentの数に直接左右されます。DPNEに付属のMS SQL Server Express Editionを使用する場合、データベースの最大サイズは4GBになります。また、サポートできるAgentの最大数は5,000²です。

ご使用の環境で5,000を超すAgentをサポートする必要がある場合は、Policy Serverを追加するかまたはMS SQL ExpressをMicrosoft SQL Serverの完全版と入れ替えることができます。このようにすれば、最大50,000のAgentをサポートするようにPolicy Serverを簡単にスケールアップできます。MS SQL Serverの完全版を使用する場合は、Policy Serverのメインメモリを3GB以上にアップグレードすることを検討してください。

Policy Serverは、Data Vaultと同じサーバー上で動作することも別々のサーバー上で動作することもできます。

Policy Serverは最低1つ必要ですが、Policy Serverの数とData Vaultsの数が一致する必要はありません。

ネットワークに関する検討事項

Notebook Extension AgentとData Vaultsとの間のネットワーク遅延が50msを超える場合、一般には、Notebook Extension AgentからData Vaultsに対して初期更新を行うことは推奨されません。低速のWAN接続で結ばれるホームオフィスや遠く離れたオフィスでは、通常、ネットワーク遅延が50msを超えます。初期更新は可能ですが、きわめて長い時間がかかります。

ご使用の環境に複数のサイトに点在するオフィスが含まれ、そのうちの一部のネットワーク遅延が50msを超える場合、Data Vaultsを複数のサイトに設置してすべてのオフィスから少なくとも1つのData Vaultに50ms以下の遅延でアクセスできるようにすることを検討してください。

初期更新が完了すれば、ホームオフィスを含む、企業ネットワーク上の任意の位置から更新を行うことができます。初期更新以外の更新では更新されるデータのサイズが小さいので、通常、低速のネットワーク接続経路でも十分です。

²Policy Server上の「レポートデータの保持期間」のデフォルト設定(30日)を使用

初期更新を高遅延の接続経由で実行しなければならない状況では、更新の完了までに数日かかりますが、途中で中断しても問題ありません。Data VaultにNotebook Extensionを再接続すると、停止された時点からただちに更新が再開されます。

 **ヒント:**

オフィス間の遅延についての情報がない場合は、1つのサイトのコンピューターからpingコマンドを実行して別のサイトのコンピューターにpingを送信します。pingが成功すれば、遅延が報告されます。

4 Notebook Extension Agentのインストール

📖 注記:

Notebook Extension Serverのバージョンを更新する場合は、前のバージョンのNotebook Extensionを使用する既存のAgentは、そのまま使用することができます。Manual Updateを使用して手動で更新することも、Agent更新ポリシーを使用して「ユーザーの操作なしに」更新することもできます。詳しくは、「[Agentの更新](#)」(40ページ)を参照してください。

📖 注記:

ライセンスは、Agentのインストール時に、各Agentに配布されます。

Notebook Extension Agentは次の2通りの方法でインストールできます。

- ・ 個別に各クライアントマシンにインストールする。「[個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール](#)」(36ページ)を参照してください。
- ・ すべてのクライアントマシンにアクセス可能なファイルサーバーから組織全体に配置する。「[Notebook Extension Agentの組織全体への配置](#)」(37ページ)を参照してください。

個々のクライアントマシンへのNotebook Extension Agentのインストール

要件

Notebook Extension Agentソフトウェアは、Windowsを実行するユーザーのデスクトップまたはノートブックにインストールできます。サポートされるプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。

「管理者」権限を持つアカウントにログインする必要があります。

インストール手順

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. [Install or Update Data Protector Notebook Extension Agent Software]をクリックします。[開く]または[保存]ダイアログボックスが表示された場合は、[開く] (または[実行])を選択します。
3. ユーザーコンピューターにMicrosoft Windows Installer 3.1以降がインストールされていない場合は、ウィザードによってそれをインストールするように指示されます。[Windows Installerの更新]ダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックしてそれをインストールします。
4. ユーザーコンピューターにMicrosoft .NET Framework 2.0 SP1以降がインストールされていない場合は、ウィザードによってそれをインストールするように指示されます。[Microsoft .NET Framework 2.0 SP1のインストール]ダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックしてそれをインストールします。
5. ウィザードが自動的にNotebook Extension Agentをインストールします。画面上の指示に従います。インストール中に、Policy Serverの詳細情報を入力するように求められます。
6. インストールと設定が完了したら、[終了]をクリックします。Open File ProtectionポリシーがPolicy Serverに設定されている場合は、システムを再起動するように指示されます。
これで、Notebook Extensionアイコンがシステムトレイに表示されます(保護の状況に応じて次のいずれか: ).
7. 次の手順を実行して、Notebook Extension Agentが適切に動作することをテストします。

StartInstall.exe	権限を持つユーザーとしてSetup.exeを起動します。
Setup.exe	要件とDataProtectorNE.iniをインストールします。
DataProtectorNE.msi	Notebook Extension AgentソフトウェアをインストールするためのWindows Installerパッケージ。
DataProtectorNE64.msi	64ビットマシンにNotebook Extension AgentソフトウェアをインストールするためのWindows Installerパッケージ。
DataProtector*. *. mst	ローカライズされたNotebook Extension AgentソフトウェアをインストールするためのWindows Installerパッケージ。
WindowsInstaller.exe	Windows Installerを更新します(.NETのインストールが必要)。
NetFx20SP1_x64.exe、Net-Fx20SP1_x86.exe	.NET Framework 2.0 SP1をインストールします。
Setup.ini	Notebook Extensionインストールセットアップパラメーターファイル。このファイルは、SetupConfig.exeを使用して作成されます(以下のステップ4を参照)。

配置およびインストール手順

1. 配布CD-ROMのAgentディレクトリ内のファイルを、Notebook Extension Agent Deployment Kitの使用対象のすべてのユーザーにアクセスできるディレクトリにコピーします。これには、¥¥yourserver¥¥DPNEDeployなどの共通のnetlogon共有のディレクトリを使用します。
2. 新たに作成したディレクトリに上記のファイルが含まれていることを確認します。それ以外のファイルはすべて削除します。
3. [DOSコマンド]ウィンドウを開き(cmd.exe)、cdを実行してステップ1で作成したディレクトリに移動します。
4. SetupConfig.exeを実行して、パラメーターファイルSetup.iniを作成または編集します。SetupConfig.exeの初回実行時には、すべてのパラメーターに値を入力する必要があります。その後は、パラメーターを変更するために、SetupConfig.exeを繰り返し実行できます。パラメーターを変更しない場合は、[Enter]キーを押すだけです。

必要なパラメーターは次のとおりです。

- ・ **インストールパッケージへのUNCパス** ? ステップ1でファイルがコピーされた共有ディレクトリへの完全なパス。¥¥yourserver¥DPNEDeployなど。
 - ・ **Notebook Extension Policy Server**の名前。YOURSERVERのようなNetBIOS名でも、yourserver.yourcompany.comのような完全修飾ドメイン名でも構いません。
 - ・ **ユーザー名** ? Domain Adminsグループのメンバーなど、Notebook Extension Agent Deployment Kitを使用するコンピューター上の管理者権限を持つユーザーのユーザー名。通常は、YOURCOMPANY¥JerryAdminのように、ドメインを含む完全修飾ユーザー名を指定します。
 - ・ **パスワード** ? ユーザー名に関連付けられたパスワード。確認のため2回入力する必要があります。
5. クライアントコンピューター上で、StartInstall.exeを実行します。たとえば、¥¥yourserver¥DPNEDeploy¥StartInstallと指定します。このプログラムは、Setup.iniで指定されたユーザー名とパスワードを使用して、Setup.exeを低い優先度で、バックグラウンドで実行します。これは、ログオンスクリプトの一部として実行できます。マシンアカウントが十分なネットワーク権限を持っていないため、それをスタートアップスクリプトに含めることはできない点に注意してください。
 6. Setup.exeは、クライアントコンピューターがNotebook Extensionをサポートできるかどうかを判断します。サポートされるWindowsプラットフォームについては、サポートマトリックスを参照してください。
 7. Setup.exeは、.NET Frameworkバージョン2.0 SP1がインストールされているかどうかを判断します。インストールされていない場合は、インストールします。その後、コンピューターの再起動が必要となることがあります。
 8. Setup.exeは、Notebook Extensionがすでにインストールされているかどうかを判断します。インストールされていないか、バージョンが古い場合は、Notebook Extensionをインストールします。

注記:

ステップ4～7でエラーが発生すると、Notebook Extension Policy Serverと、ローカルコンピューターのアプリケーションイベントログにメッセージが記録されます。

Notebook Extension Policy Serverコンソールを使用して、Agentの配置の進行状況をチェックできます。

1. Notebook Extension Policy Serverコンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインにある[レポート]の下の[Agent配置]を選択します。最新の初期配置の概要が表示されます。次のことがわかります。
 - ・ 配置が正常に終了したマシンの数。

- ・ 進行中の配置の数。
 - ・ 配置に失敗した数。
3. [コンピューター数]列の数字をクリックすると、選択した配置状態のマシンのリストが表示されます。
各マシンの現在の状態が示されます。たとえば、特定のマシンで配置に失敗した場合、[情報]列に発生したエラーが示されます。NETBIOS名をクリックすると、そのマシンに関するさらに詳細な情報を表示できます。

Agentの更新

Notebook Extension Serverのバージョンを更新する場合は、前のバージョンのNotebook Extensionを使用する既存のAgentは、そのまま使用することができます。Manual Updateを使用して手動で更新することも、Agent更新ポリシーを使用して「ユーザーの操作なしに」更新することもできます。

Agent更新ポリシーを使用した自動Agent更新

Agentは、Policy ServerのAgent更新ポリシーを使用して「ユーザーの操作なしに」更新することができます。インストールパッケージは、接続されたクライアントに自動的に配信され、完全に自動化された方法で更新が完了します。エンドユーザーの作業は中断されません。

1. Policy Serverコンソールで、[Policies]->[Agent Update Policy]を選択します。
2. Policy Serverを更新したら、インストール手順によって新しいエージェント更新パッケージがアップロードされています。Policy Serverコンソールでは、この新しいバージョンはまだ選択されていません。
新しいAgentバージョンを選択して、使用可能にします。
3. 制限を調整することによって、1分あたりに可能な最大更新数を調整することができます。
4. [Save Agent Update Policy]をクリックします。
5. これで、Agentは最新バージョンに自動的に更新されます。また、Cleanup Agentも最新バージョンに自動的に更新されます。

注記:

Agent配置レポートを使用して、Agentの更新の進行状況をチェックできます。

手動Agent更新

既存のNotebook Extension Agentは、標準的なインストール手順を実行することで、より新しいバージョンに更新することができます。

Agentをより新しいバージョンに更新する前に、AgentのバージョンがNotebook Extension Policy Serverのバージョンに対応することを確認します。

1. Notebook ExtensionインストールCD-ROMを挿入します。インストールウィザードが自動的に起動しない場合は、インストールCD-ROMのルートでsetup.htaをダブルクリックして手動で実行します。
2. ウィザードの[Install Data Protector Notebook Extension]ページで、[Install Agent]をクリックし、更新を開始します。
3. 画面上の指示に従います。
4. インストール手順によって既存のAgentのインストールが検出され、更新が行われます。
5. 画面上の指示に従います。

5 Notebook Extensionのサポートへの連絡方法

Notebook Extensionには、1年間のメンテナンス保証が付いています。次のサービスを利用できます。

- ・ 電話サポート。サポート技術者に問い合わせることができます。
- ・ Notebook Extension ServerおよびNotebook Extension Agentソフトウェアの更新。最新バージョンおよびCD-ROMイメージは、Data Protector Webサイトからダウンロードできます。<http://www.hp.com/go/dataprotector> (英語)を参照してください。

用語集

Active Directory	(Windows 固有の用語) Windowsネットワークのディレクトリサービス。ネットワーク上のリソースに関する情報が含まれ、それらのリソースをユーザーおよびアプリケーションがアクセスできるようにします。ディレクトリサービスは、リソースの存在する物理システムに関係なく、それらのリソースの命名、記述、検出、アクセス、管理を行う一貫性のある方法を提供します。
Agent	各ユーザーのデスクトップ/ラップトップで動作するNotebook Extensionソフトウェア。AgentはTCPポート80からWebサービス(SOAPおよびXML)を介してPolicy Serverと通信を行います。
クリーンアップポリシー	ファイル保護ポリシーで設定した保持期間は、定期的に行われるクリーンアップタスクにより処理が行われます。実行頻度は、クリーンアップポリシーに定義されています。デフォルトでは、ユーザーのLocal Repositoriesは1時間ごとにクリーンアップされ、ローカルで定義されたData Vaultsは1日に1回クリーンアップされます。中央で定義されたData Vaultsは、Data Vaultポリシーを通じて割り当てられたコンピューターによってクリーンアップされます。クリーンアップポリシーはすべてのユーザーに適用されます。
コンソール	ブラウザーベースのコンソールは、ここでNotebook Extensionポリシーを集中的に定義できます。Administratorのグループのメンバーである必要があります。
Continuous File Protection	Continuous File Protectionは、Notebook Extensionの継続的データ保護方式で、ファイルが保存されるたびに変更内容を自動的に保存します。これは、ユーザーによって保存されるデータファイルに適しています(逆に、データベースやOutlookファイルなどの常に開かれているファイルには適していません)。各Continuous File Protectionポリシーは、何らかの関係のあるファイルのグループを保護対象とします。Notebook Extensionには、Office文書やピクチャなどのよく使われるタイプのファイル用のポリシーが事前構成されています。これらのファイル保護ポリシーを編集することも、自分独自のポリシーを作成することもできます。ポリシーは、保護されてい

るファイルの以前のバージョンをどれだけの期間保持するかも指定します。

コピーポリシー

コピーポリシーは、次のことを定義します。

- Data Vaultsに同時にファイルをコピーできるAgentの数。
- 定期的な更新のスケジュール。ユーザーに関連すると予想されるファイルがすべてData Vaultに存在することを確認し、存在しない場合は、不足しているファイルをコピーします。これにより、すべてのユーザーファイルがData Vaultに適切にコピーされていることをより強力に保証します。
- 初期更新を実行する必要があるかどうか。通常のNotebook Extension操作の間は、ユーザーがNotebook Extension継続的保護ファイルを変更するたびに、変更に関する情報しかData Vaultにコピーされないため、初期更新が必要です。

Notebook Extensionをインストールしたばかりの場合は、ユーザーの保護ファイルすべての初期更新を作成するためのコピーポリシーを設定する必要があります。

Data Vault

Data Vaultは、Data Vaultポリシーに従ってファイルを保管するファイルサーバー上の共有フォルダーです。ファイルサーバーは、Windowsファイル共有プロトコル(CIFS/SMB)をサポートする必要があります。ユーザーが属するグループや組織単位に基づいて、1つ以上のData Vaultポリシーをユーザーに割り当てることができます。

初期更新

ユーザーは変更内容を保存することによってファイルを変更するため、Notebook Extensionはファイルを継続的に保護します。ユーザーが新しいData Vaultを作成するたびに、Notebook ExtensionはData Vaultに対してすべてのユーザーの保護ファイルの初期更新を行う必要があります。ユーザーは、初期更新をすぐに行うか、バックグラウンドで行うかを選択することができます。

Local Repository

Local Repositoryは、保護ファイルやファイル変更分の保管に使用される、Agentコンピューター上の安全な保管場所で、通常はシステムハードディスクドライブ上にあります。これは、隠しシステムディレクトリです。ユーザーは、以前のバージョンをデスクトップやWindows Explorerからや、[開く]ダイアログボックスでファイルを右クリックすることで素早く回復が可能となります。Continuous File Protectionポリシーで保護されたファイルは、保持期間を満たしている間は、ローカルコンピューターの隠しディレクトリに保管されます。Open File Protectionポリシーで保護されたファイルは、それらがData Vaultにコピーされるまでの間のみローカルのVersion Storeに保管されます。Local Repositoryのパスは通常、C:\{DPNE}です。

Open File Protection	Open File Protectionは、定期的にファイルレベルのスナップショットを取得することで、Outlook個人用フォルダーや多数のデータベースファイルなどの常に開かれているファイルをバックアップします。これは、「近似」継続的データ保護と呼ばれることもあります。Open File Protectionポリシーは、常時使用ファイルの保護を定義します。包含ルールおよび除外ルールのセットで定義されます。たとえば、「『.pst』で終わる」という包含ルールを指定し、「Outlook個人用フォルダー」という名前のポリシーを定義し、Outlook .pstファイルに適用することが可能です。アーカイブした.pst ファイルを除外したいときは、「『archive』を含む」という除外ルールを作成します。保護されているファイルの以前のバージョンをどれだけの期間保持するかも指定します。Open File Protectionポリシーは、すべてのユーザーに適用されます。
ポリシー	ポリシーとは、Policy Serverで集中的に定義され、各デスクトップ/ラップトップ/ノートブックでAgentによって実行されるルールセットです。
Policy Server	Policy Serverは、Notebook Extensionポリシーの集中管理を行います。また、Agentの状況を収集し、それらの配置と処理のレポートを出力します。
保護ファイル	保護ファイルとは、Notebook Extensionによって自動バックアップされるファイルのことです。保護されるファイルタイプは、Continuous File ProtectionポリシーおよびOpen File Protectionポリシーで定義されます。
ユーザー制御ポリシー	このポリシーは、デスクトップ/ラップトップ/ノートブックで動作しているAgentソフトウェアをユーザーが自分でどこまで制御できるかを決定します。Agentを管理することで、ユーザーからポリシーを完全に隠したり、ポリシーを見せるけれども編集できなくなったり、ユーザー自身がポリシーを追加できるようにしたりすることができます。主要な各Notebook Extensionポリシーに個別に制御レベルを設定することができます。ユーザー制御ポリシーは、すべてのユーザーに適用されます。

索引

シンボル

.NET Framework, 18, 36

A

Active Directory, 11

アクセス, 28

グループのData Vaultsとの関連付け,
28

Active Directoryへのアクセス, 28

Agent, 11

更新, 40

サポートできる数, 31

要件, 15

Agent Deployment Kitの内容, 37

Agent更新ポリシー, 29

Agentソフトウェア

インストール, 35

組織全体への配置, 37

Agentソフトウェアの配置, 37

進行状況のチェック, 39

手順, 38

Agent配置レポート, 40

ASP.NET, 19

D

Data Vaults

Active Directoryグループの関連付け,
28

サーバーに関する推奨事項, 32

要件, 25

Data Vaultポリシー, 25

E

EFS暗号化ファイル, 27

F

File Protectionポリシー, 27

Continuous, 27

Open, 27

H

HP

テクニカルサポート, 8

I

IIS, 19

M

Microsoft SharePointとのインストール, 20

N

Notebook Extension

Agentのインストール, 35

アーキテクチャー, 12

概要, 11

サポートの取得, 43

Notebook Extensionの評価, 23, 30

O

Open File Protectionポリシー, 27

P

- Policy Server, 11
 - インストール, 17
 - 更新, 21
 - 推奨事項, 33
 - データベースの要件, 14
 - 要件, 13
- Policy Serverコンソール
 - 実行, 19
 - ブラウザ設定, 20
- Policy Serverコンソール、実行, 25
- Policy Serverコンソール用のブラウザ設定, 20

S

- SharePoint
 - Policy Serverのインストール, 20
- SQL Server
 - インストール, 19
- SQLデータベース
 - 要件, 14
- Subscriber's Choice、HP, 9

W

- Webサイト
 - HP, 9
 - HP Subscriber's Choice for Business, 9
- Windows Installer, 18, 36

あ

- 暗号化パスワード, 23, 30, 31
- 暗号化パスワードのインポート, 31
- 暗号化パスワードのエクスポート, 23, 31
- 暗号化パスワードの入力, 31

い

- インストール
 - Agent, 35
 - Policy Server, 17
 - SQL Server, 19
 - 概要, 13
- インターネットインフォメーションサービス, 19

か

- 概要, 11

く

- クリーンアップポリシー, 29

こ

- 更新
 - Agent, 40
 - Policy Server, 21
- コピーポリシー, 26
- コンソール
 - 実行, 19
 - ブラウザ設定, 20
- コンソール、実行, 25

さ

- サーバー
 - ファイル, 11
 - ポリシー, 11
- サイズ決定に関する検討事項, 31
 - Data Vault, 32
 - Policy Server, 33
 - ネットワーク, 33
- サポート, 43
- サポートマトリックス, 11

し

資料

フィードバックの提供, 9

せ

設定

Active Directoryへのアクセス, 28
Agent更新ポリシー, 29
Data Vaultポリシー, 25
Continuous File Protectionポリシー,
27
Open File Protectionポリシー, 27
クリーンアップポリシー, 29
コピーポリシー, 26
初回インストール時のポリシー, 24
ファイル保護ポリシー, 27
ユーザー制御ポリシー, 29
レポートデータ保持期間, 30

て

テクニカルサポート, 8, 9
データベースの要件, 14
デスクトップ、要件, 15

と

読者, 7

ね

ネットワーク、サイズ決定に関する検討事
項, 33

の

ノートブック、要件, 15

は

配置

進行状況のチェック, 39
手順, 38
パスワード, 23, 30

ひ

表記上の規則

文書, 7

ふ

ファイルサーバー, 11
ファイル保護ポリシー, 27
文書
表記上の規則, 7

へ

ヘルプ

入手, 8

ほ

ポリシー

Agent更新, 29
Continuous File Protection, 27
Data Vault, 25
Open File Protection, 27
クリーンアップ, 29
コピー, 26
初回の設定, 24
配信, 12
ファイル保護, 27
ユーザー制御, 29
レポートデータ保持期間, 30

ゆ

ユーザーコンピューター、要件, 15
ユーザー制御ポリシー, 29

よ

要件, 13

ら

ライセンス, 23, 30

移動, 30

使用可能, 24

ライセンスキー

入力, 30

ライセンスキーの入力, 30

ライセンスの移動, 30

れ

レポートデータ保持期間, 29